

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

ムラタグループでは、本業で社会課題の解決へと取り組む姿勢を明確に表示しています。新たな技術の開発だけではなく、技術の組み合わせや経験を通じた新しい価値を提案することで、社会課題に取り組んでいます。また部品メーカーとして、一般から分かりにくい技術やその活用について、機能を抽出してムラタセイサク君®や村田製作所チアリーディング部という形に変え親しみやすく具現化して伝えています。これらのロボットは、災害救助や自動車の安全などに応用が期待される技術を分かりやすく伝えるものであり、楽しみながら興味を持って学ぶことができる、大変素晴らしいアイデアだと思います。ムラタは何を作ってどうやって社会に貢献していくかを表現したものであり、ムラタグループが送り出す製品に期待が高まります。

Murata Reportは従業員の顔が見える報告書です。特に後半のCSR Report部分は男性女性、日本人外国人、若手ベテランと様々な顔が見えます。グローバルな人材活用を志向されていることの象徴と感じます。女性の活用という視点で記事を取り上げていますが、本質的には「働き方」を変えるということであり、すべての人が働きやすい職場環境をつくりたいというメッセージが込められているのではないかと思います。グローバルに拡大するムラタグループに経営理念を浸透させていく活動ともリンクし、ムラタグループにおける価値観を共有していくことにつながります。今後も更に進めていただきたい活動です。

前半が会社案内、後半がCSRレポートという形式は、いわゆる統合報告を志向しているように見えますが、ムラタグループでは特に統合を意識せず、環境やCSR活動といった非財務情報を読み解くために、事業の概要や活動状況を前半に配置しています。2015年版は非財務情報における数値情報も増加し、事業の概況と連携させて数値を読み解くことができる項目が更に増えました。CSR憲章に沿ったKPI(主要なパフォーマンス指標)を決めて開示し、それが本業の長期展望や経営計画の中でどのような位置づけにあり、どのような進捗状況を示しているのかわかるようになれば、更にムラタグループのあるべき姿、目指す姿が具体的に読者に伝わるのではないかと思います。また外から見たムラタグループについて、ムラタグループと係わる様々な立場の方とコミュニケーションをとり、双方向で話を聞く対話の場、座談会(ダイアログ)などを開催してみたいかがでしょうか。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
國部 克彦氏